

平成 28 年度未病対策事業主な実績

① 黒部の水（温泉水・飲用水）を活用した体質分析基礎調査の実施

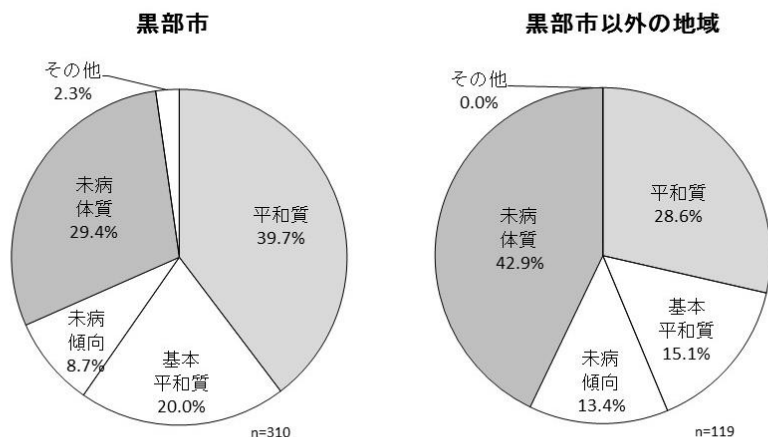
体質調査票（60 問）を用いて、日常的に黒部の水の飲用を履行している人とそうでない人、黒部の温泉を週 2 回以上利用している人とそうでない人の体質の違いを比較、分析。

（募集人数 400 人、被験者 429 人）

被験者内訳

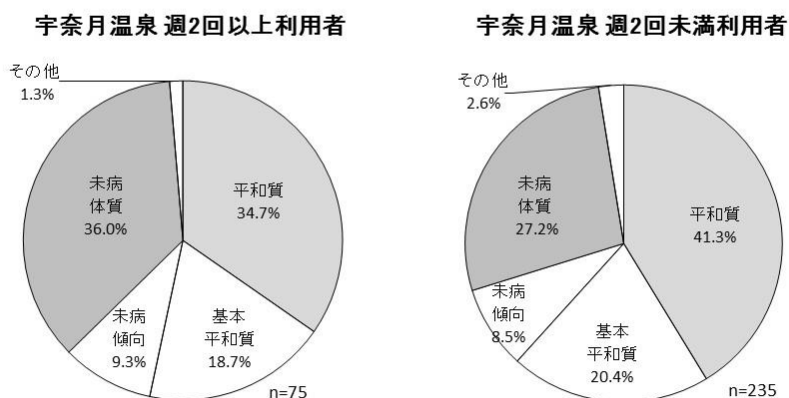
試験の種類	対照群／試験群	対象要件	募集人数	人数
飲用水試験	試験群	黒部市在住 20 歳以上 日常的に黒部市の飲用水の飲用を履行している者	120 人	155 人
飲用水試験	対照群	黒部市以外日本国在住 20 歳以上 黒部市の飲用水非飲用者（市外の方）	80 人	99 人
温泉試験	試験群	20 歳以上 宇奈月温泉利用（利用回数 2 日／週以上）	120 人	93 人
温泉試験	対照群	20 歳以上 宇奈月温泉利用（利用回数 2 日／週未満）	80 人	82 人

黒部市民の体質分布



黒部市は健康体質である平和質の割合が、黒部市以外の地域より高く、未病体質の割合は低かった。また、基本的に健康であることを示す基本平和質と平和質の合計は半数以上と特徴的な分布であった。これは、黒部の良質な水のみならず、住居環境、健康行政の成果等によってもたらされた結果と考えられた。

温泉利用と体質分布



両被験者間に体質分布の大きな違いはみられなかった。しかし、週 2 回以上利用者の未病体質比率はやや高かった。これは、被験者に偏りが生じていたことに起因するものと考えられる。その理由として、今回の試験群の被験者に温泉施設従事者が多かったこと、また、もともと未病であった者が進んで温泉療法を行っていた可能性がある。

② キックオフ講演会「学びませんか未病のこと～健やかな未来のために～」の開催

開催日時会場：平成 28 年 11 月 6 日（日） コラーレマルチホール

参加者：約 150 名

内容：講演「黒部の水資源で市民に健康を！！」

講師 金沢大学大学院 鈴木特任助教 ほか 2 名

③ 健康チェック機材の活用

・ 11/6 キックオフ講演会にて血管年齢測定コーナーを設置（81 名測定）

・ ①の体質調査市内被験者を対象に血圧・血管年齢測定相談会の開催

（H29 年 3 月 全 7 回、75 人測定）

④ 市民意識調査の実施

・ 市内 20 歳～79 歳 1,000 名（無作為抽出）に未病対策・健康についての意識調査を実施

KPI 健康である 78 人（15.6%）

どちらかといえば健康 283 人（56.6%）

合計 72.2%

（H25 健康増進計画中間評価 78%）

KPI 宇奈月温泉宿泊者 326,639 人（H27 335,000 人）

KPI メタボ該当・予備群 28%（H26 29%）

⑤ 未病市民大学の事業（市が運営補助）

・ 健康セミナーの開催（平成 28 年 11 月～29 年 3 月 全 10 回、延べ 178 人）

・ 体質コンシェルジュの養成 3 人

・ 北陸銀行取引先との集会にて講演（鈴木教授）

・ 宇奈月温泉地区の旅館女将を対象にした講演（鈴木教授）の実施

・ 宇奈月温泉地区の旅館でハトムギの粉末を活用したメニューの開発を依頼

・ Facebook での情報発信

・ 有償会員募集に向けた検討

⑥ 北陸銀行との協定締結

締結期間：平成 28 年 9 月 30 日～平成 31 年 3 月 31 日

連携・協力事項

（1）「未病対策」の推進及び普及啓発に関すること

（2）市民の健康づくり対策の推進に関すること

（3）その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

黒部の水資源を活用した未病対策と健康づくり—黒部モデルの構築— 重要評価指標 (KPI) の検証

(1) 重要評価指標、検証の方法、指標選定理由

各KPIの達成状況を以下の方法により把握し、事業実施年度の翌年6月～7月に外部委員を交えて事業を検証し、PDCAサイクルに基づく事業改善を図

重要評価指標 (KPI)		効果検証の方法	指標選定理由
指標①	「健康である」と感じている市民の割合	・事業年度末に市民意識調査を実施 ・20歳～79歳男女 無作為抽出1,000人のうち有効回答における割合を把握する。	健康寿命の延伸を目的としている本事業において「健康であると自覚している人」の割合を評価指標とした。
指標②	宇奈月温泉の宿泊者数	・本市の商工観光課がまとめる1月～12月までの宇奈月温泉の宿泊客数を把握する。	宇奈月温泉の利用と体質の関係を検証する本事業により、訪れてもらえる観光地としての魅力をアップさせることを目指している。結果として宿泊客の増加に結び付くことが想定されることから評価指標とした。
指標③	特定健診受診者におけるメタボリックシンドローム該当・予備群の割合	・国民健康保険被保険者、協会けんぽ被保険者で特定健診受診者のうち、メタボリックシンドローム該当・予備群の割合を把握する。	特定健診・特定保健指導では、メタボリックシンドローム該当・予備群を生活習慣病や重病疾病の予防のための働きかけの一つの指標として用いている。本事業は病気になる前の「未病」の状態からの健康づくりを推進しており、重病化の一手手前であるメタボリックシンドロームの該当者や予備軍の減少にもつながると想定されることから、評価指標とした。

(2) 目標値及び実績

重要評価指標 (KPI)		設定した基準値		平成28年度 (A)	平成29年度	平成30年度	平成28年度実績 (B)	目標との差	備考
指標①	「健康である」と感じている市民の割合	78%	H25年度健康増進計画中間評価の市民意識調査	80.0%	85.0%	90.0%	72.2%	-7.8%	H29.3市民意識調査より
指標②	宇奈月温泉の宿泊者数	335,000人	H27年実績から100人未満切り捨てた値	340,000人	345,000人	350,000人	326,639人	-13,361人	H27.1～H28.12の宿泊者数
指標③	特定健診受診者におけるメタボリックシンドローム該当・予備群の割合	29%	H26年実績	27%	25%	23%	28%	1%	H27実績

(3) 事業実績とKPI指標の検証について

実施日	平成29年7月20日(木)午後1時30分～午後2時30分
会場	市役所市民交流サロン1
出席者	健康づくり推進協議会委員13名、職員6名
検証方法	平成28年度の事業実績並びにKPI指標の結果、平成29年度の事業計画について事務局より説明後、委員からの意見を徴収。

検証内容	委員からの質疑・意見等	事務局回答
(委員質疑・意見等)	キックオフ講演会の150名はどのような方がこられたか	新聞折込と検診時等でチラシを配布した。また自治振興会、食生活改善推進員、母子保健推進員、他の関係団体にも別途案内をした。
	市民意識調査は1,000人に出して50%の回収率は低いと感じる。対象の年齢はどこか。また、最も回答が多い年代はどこか。	20歳～79歳の男女を無作為抽出して行っている。20代の方の回答などはどうしても低く、回答率も50%であった。最も回答が多かった年代は60代。
	体質調査については、大学の教授が監修に入っているが、ただ調査を行うのではなく、例えば学会誌に載せてもらうなど、正当な評価を受けるといことが重要であると考え。地域の振興ということも大切ではあるが、学術的な意味合いもまた重要。	教授からもそういった話を想定しているようなお話は以前聞いていたが、委員からのご意見としても伝え、進めていきたい。
	事務局からの説明は事業の数字的な成果だけであったが、例えば講演会の参加者の感想など、実際の参加者の反応はどうか。70代の友人は体質調査に参加しているが、生きがいのように取り組んでいる声も聞いた。今日の検証でも参加者の生の声という面での成果も聞き取った。	キックオフ講演会の参加者のアンケートでは、好評の声を多数いただいた。血管年齢測定についても非常に多くの方が測定されて、健康に関心が高いことを感じた。また、未病市民大学のセミナーも熱心に参加しておられる方もいて、非常にためになるという声も多く聞いている。ただ、参加者の年齢層は高めであり、すでに何らかの身体の不都合が生じている方という印象もある。
	「健康である」という市民の健康度を高めるには、もっと具体的な普及啓発を行う必要があるのでは。例えば食生活や運動といった取り組みやすいところから広めていけばどうか。	平成29年度の事業で、未病に関連したレシピコンテストや観光ツアーを実施予定。また、未病市民大学セミナーの内容についても、平成28年度は総論的なものであったが、より具体的な内容で回数を増やして実施予定と聞いている。市民への普及啓発を推進していく。